

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-148960

(43) 公開日 平成6年(1994)5月27日

(51) Int.Cl.⁵

G 0 3 G 15/00

識別記号

1 0 1

庁内整理番号

9314-2H

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平4-322287

(22) 出願日 平成4年(1992)11月9日

(71) 出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72) 発明者 大沢 由美子

東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤノ
ン株式会社内

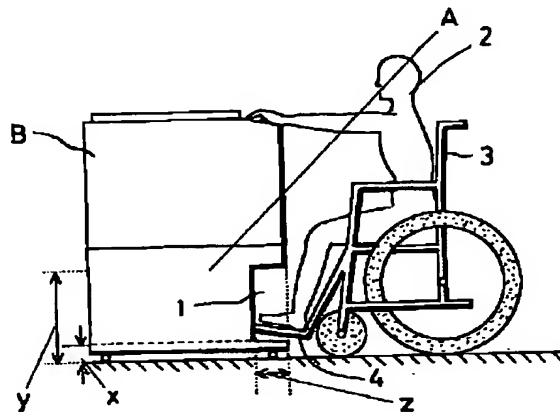
(74) 代理人 弁理士 中川 周吉 (外1名)

(54) 【発明の名称】 ペディスタル

(57) 【要約】

【目的】 車椅子使用者の操作性を向上させたペディスタルを提供すること。

【構成】 画像形成装置等を載置するペディスタルの所定位置に蹴り込み部を形成したことにより、車椅子使用者が画像形成装置等を操作する場合、車椅子のフットレスを上記ペディスタルの蹴り込み部に侵入させて方向変換することができ、操作域を減少させることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 画像形成装置等を載置するためのベディスタルにおいて、
車椅子の向きを変更可能な蹴り込み部を形成したことを特徴とするベディスタル。

【請求項2】 前記ベディスタルは、昇降機構を有することを特徴とする請求項1記載のベディスタル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、複写機、ファクシミリ等の画像形成装置やキャビネット等を載置するベディスタルに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、複写機、ファクシミリ等の画像形成装置やキャビネット等を載置するベディスタルは、上記機器や収納庫等を使用者にとって適当な高さに設置するために用いられている。また上記ベディスタルは、積載物の重みに耐えて安定した状態で積載物を使用でき、底部にキャスター等を装備して設置面上を移動させることができる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記従来技術に示すベディスタルは、設置箇所、使用される環境に対しての配慮が十分でないという課題があった。例えば、図6に示すように、車椅子61を使用する者が車椅子61の方向を変える場合にはおよそ140cm×170cmの面積が必要となる。上記ベディスタル上に複写機62を載置してオフィスに配置した場合、スペース不足に悩むオフィスの現状を考慮すると、複写機62の前に140cm幅の通路を設けることは比較的困難である。

【0004】 また、図7及び図8に示すように、狭い通路に設置された複写機62を車椅子使用者63が使用する場合、車椅子61を複写機62の正面に向かうように移動させると、ベディスタルの前面に車椅子61のフットレス部（足置き）64がぶつかるため、横向きのまま操作しなければならない、また複写機使用中に車椅子の向きを変えることができないため操作性が悪い。また、図9に示すように、車椅子使用者63が複写機62の正面に向いた場合、フットレス部64が邪魔になって複写機62との間隔が開き、操作困難であった。

【0005】 本発明の目的は、前記従来技術に示す課題を解決し、車椅子使用者の操作性を向上させたベディスタルを提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】 前記従来技術の課題を解決するための本発明に係る代表的な手段は、画像形成装置を載置するためのベディスタルにおいて、車椅子の向きを変更可能な蹴り込み部を形成したことを特徴とする。

【0007】

【作用】 上記手段によれば、画像形成装置等を載置するベディスタルの所定位置に蹴り込み部を形成したことにより、車椅子使用者が画像形成装置等を操作する場合、車椅子のフットレスを上記ベディスタルに形成した蹴り込み部に侵入させて方向変換することができ、操作域を減少させることができる。

【0008】

【実施例】 〔第1実施例〕 次に前記手段を適用したベディスタルの一実施例について図面を参照して説明する。図1はベディスタル上に複写機を載置した状態を示す斜視図、図2及び図3は車椅子使用者の方向変換操作を示す説明図である。

【0009】 図1及び図2において、Aはベディスタルであって、その上面には公知の複写機Bが載置されている。上記ベディスタルAの前方及び後方側面部には、断面コ字状の蹴り込み部1が形成されている。この蹴り込み部1は、車椅子使用者2が複写機前面に向かった場合に、車椅子3のフットレス部4がベディスタルAの前面に干渉するのを避けるため形成されている。上記蹴り込み部1の大きさは、例えば図2に示すように床面からの高さx=5cm未満の高さから床面から22cm以上の高さを有し、奥行きz=5cm以上の大きさで形成されている。また上記ベディスタルAの底部にはキャスターが設けられており、複写機Bを載置したまま移動可能に構成されている。図2は車椅子使用者2が車椅子3のフットレス部4をベディスタルAの蹴り込み部1に侵入させて装置前面を向いた状態を示す。

【0010】 次に車椅子使用者2が複写機Bを使用する場合の操作方法について図3を参照して説明する。

- ① 30 ① 先ず車椅子使用者2は、複写機Bに対して右（又は左）方向から近づき、車椅子3のタイヤのついている面（以後、『車椅子側面』と言う）をベディスタルAの前面につけた向きで複写作業を行う。本実施例では、車椅子右側面がベディスタルAの前面に対向している。
- ② 複写作業が終わったら、蹴り込み部1にフットレス部4を侵入させるように車椅子を図の矢印方向に90度回転させ、図2に示すように車椅子3を正面に向ける。
- ③ 更に車椅子3を回転させてフットレス部4を蹴り込み部1より外側出すように向きを換え、①の状態から180度向きをかせ、車椅子左側面をベディスタルAの前面に対向させた状態で右方向（図面上側）の元来た方向に戻す。

【0011】 上記構成によれば、狭い通路等のスペースのない場所に設置された複写機Bを車椅子使用者2が使用する場合、車椅子3のフットレス部4をベディスタルAの前面に干渉することなく蹴り込み部1を利用して車椅子3の方向変換を行うことができるため、操作性を向上させることができる。

【0012】 尚、上記ベディスタルAに載置される積載物は、複写機に限らずファクシミリ、電話機、キャビネ

ット、マップケース等であっても良い。

【0013】〔第2実施例〕次に前記第1実施例に示すベディスタルの他例について図面を参照して説明する。図4はベディスタル上に複写機を載置した状態を示す斜視図、図5は車椅子使用の使用者の複写機の操作状態を示す説明図である。本実施例は、蹴り込み部1を有するベディスタルAが電動式、油圧式、或いはエア式等の高さを調整可能な昇降機構を有するものである。

【0014】図4において、ベディスタルAは、本体となる台座5及び昇降部6を有しており、昇降部6には公知の複写機Bが載置されている。本実施例では複写機BとベディスタルAとは電氣的に接続されており、複写機Bに設けられた上昇スイッチ7、下降スイッチ8を押すことにより、昇降部6が昇降するように構成されている。また上記ベディスタルAには前面及び後面に蹴り込み部1が形成されており、昇降部6に前面及び後面の何れの向きに合せて複写機Bを載置することが可能である。また上記ベディスタルAの底部にはキャスターが取り付けられており移動可能に構成されている。

【0015】上記昇降機構により、使用者の身長、目的に応じて高さを調節することができ、また蹴り込み部1が形成されている分、装置に近づいて操作することができ、ベディスタルA上に載置した複写機Bの操作性を一層向上させることができる。

【0016】次に車椅子使用者2等が複写機Bを使用する場合の操作方法について図5を参照して説明する。

①まず車椅子使用者2は、複写機Bに対して右（又は左）方向から近づき、車椅子右側面をベディスタルAの前面につける（車椅子を使用しない者は身体の正面を向けてベディスタルAの前面に立つ）。

②自分の身長、目的に応じて複写機Bに設けた上昇スイッチ7或いは下降スイッチ8を押してベディスタルAの高さを調節して複写作業を行う。このとき蹴り込み部1に車椅子3のフットレス部4（または足）を侵入させることができるため、正面を向いたまま複写機Bに近づいて作業することができ、操作性が良い。

③複写作業が終わったら、車椅子使用者2は車椅子3を所定方向に90度回転させて進行方向に向きを換えて移動

する。

【0017】

【発明の効果】本発明は前述したように、画像形成装置等を載置するベディスタルの所定位置に蹴り込み部を形成したことにより、車椅子使用者が使用する場合、車椅子のフットレスを上記蹴り込み部に侵入させて方向変換することができ、操作域を減少させることができると共に、操作性を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

10 【図1】ベディスタル上に複写機を載置した状態を示す斜視図である。

【図2】車椅子使用者の方向変換操作を示す説明図である。

【図3】車椅子使用者の方向変換操作を示す説明図である。

【図4】第2実施例にかかるベディスタル上に複写機を載置した状態を示す斜視図である。

【図5】ベディスタルの昇降動作を示す説明図である。

20 【図6】従来の車椅子使用者の方向変換動作を示す説明図である。

【図7】従来の車椅子使用者の方向変換動作を示す説明図である。

【図8】従来の車椅子使用者の方向変換動作を示す説明図である。

【図9】従来の車椅子のフットレス部がベディスタルに干渉する様子を表す説明図である。

【符号の説明】

A…ベディスタル

B…複写機

30 1…蹴り込み部

2…車椅子使用者

3…車椅子

4…フットレス部

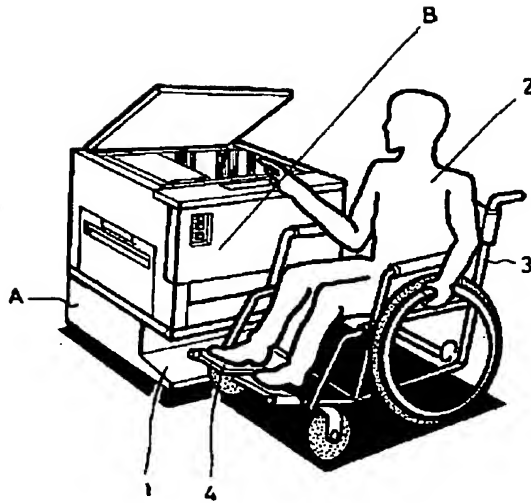
5…台座

6…昇降部

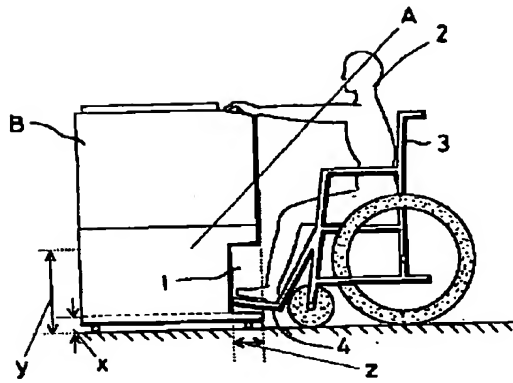
7…上昇スイッチ

8…下降スイッチ

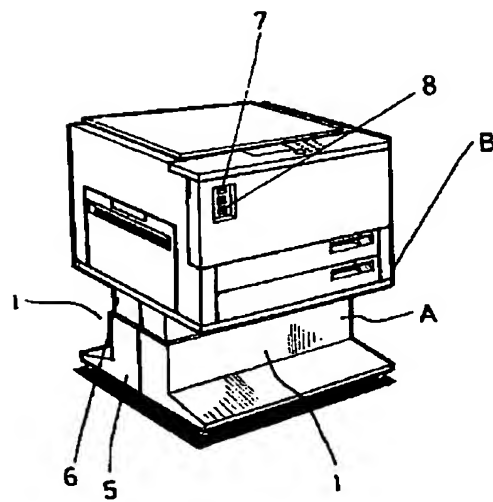
【図1】



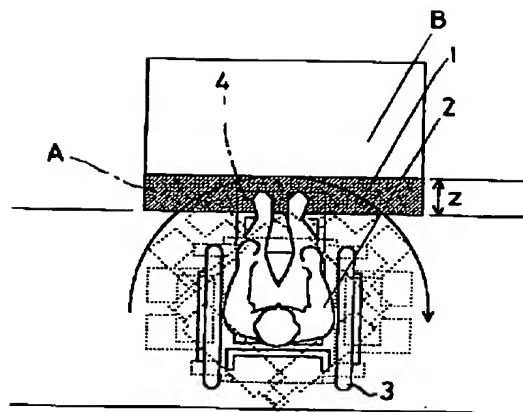
【図2】



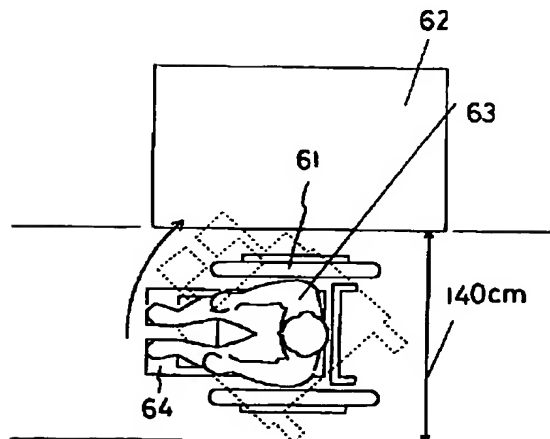
【図4】



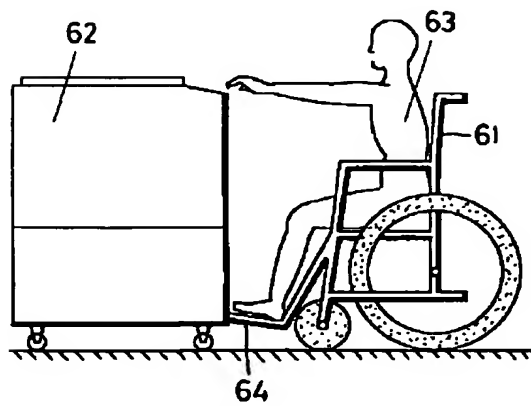
【図3】



【図7】



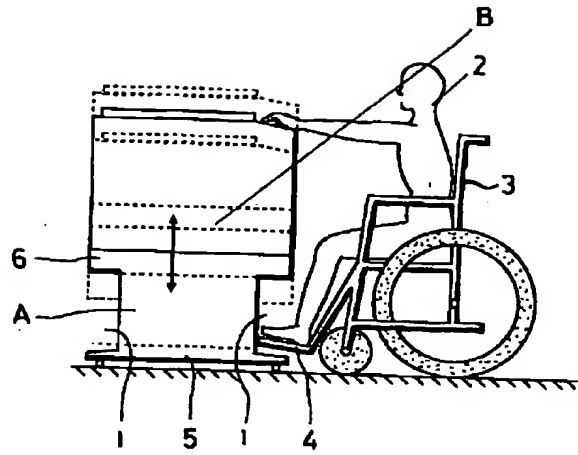
【図9】



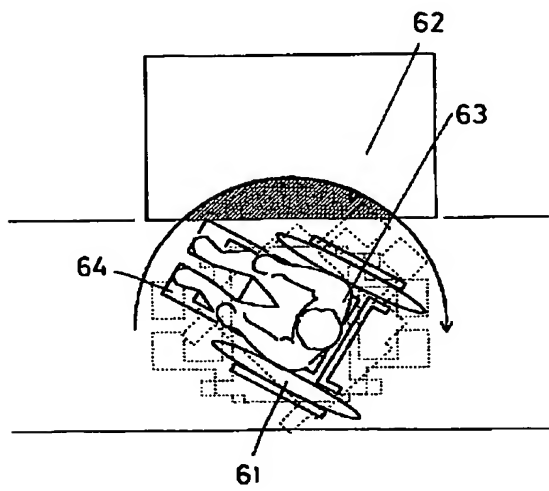
(5)

特開平6-148960

【図5】



【図8】



【図6】

